



JPX

PRIME  
TOKYO

コード番号:6369



# 2023年3月期 決算説明会資料

2023年5月25日

トーヨーカネツ株式会社

代表取締役社長 大和田 能史

- 1. 2023年3月期決算概要**
- 2. グループ中期経営計画(骨子)**
- 3. グループ中期経営計画の進捗**
- 4. 今後に向けて**

# 1. 2023年3月期決算概要

## 前年の収益認識変更による影響を除いても減収減益 営業外収益・特別利益により当期純利益は増加

(単位:百万円)

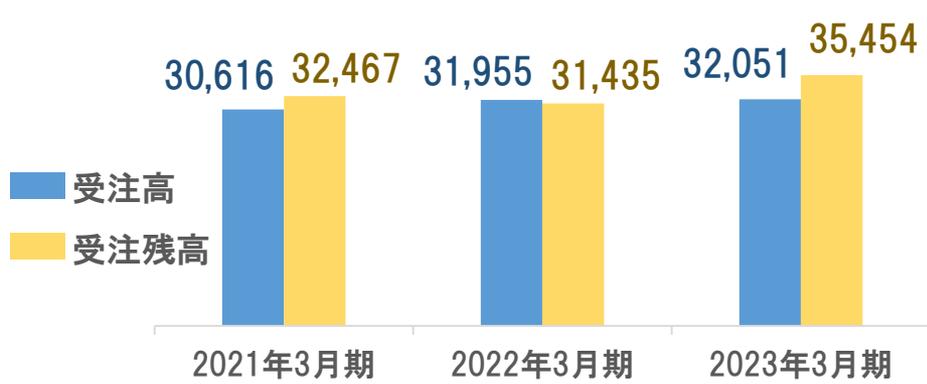
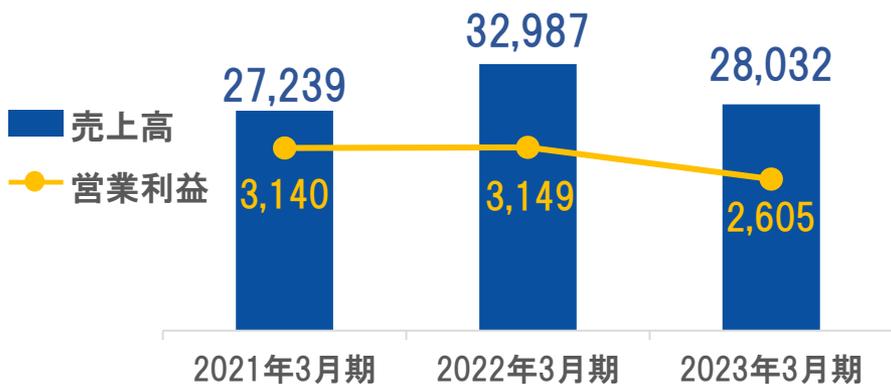
	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績 ※	2023年3月期 実績	前年同期 増減	増減率	計画値	達成率
売上高	43,617	59,177	47,351	▲ 11,826	▲ 20.0%	52,100	90.9%
営業利益	2,623	2,808	2,497	▲ 311	▲ 11.1%	2,700	92.5%
営業利益率(%)	6.0%	4.7%	5.3%	+0.6pts	—	5.2%	—
経常利益	3,053	3,474	2,896	▲ 578	▲ 16.6%	2,900	99.9%
親会社株式に帰属 する当期純利益	1,777	2,334	2,378	+44	+1.9%	2,140	111.1%
一株当たり 当期純利益(円)	212.41	285.43	293.63	+8.20	+2.9%	261.71	112.2%
ROE(%)	5.0%	6.4%	6.4%	±0pts	—	6.0%	—

※2022年3月期実績は、収益認識会計基準適用後(売上高・売上原価32.9億円)のものです。

## 部品不足による一部プロジェクト進捗遅延、原価高騰で減収減益 EC、生協に加え、製造業向け案件を獲得し受注は良好

(単位:百万円)

	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前年同期 増減	増減率	計画値	達成率
売上高	27,239	32,987	28,032	▲ 4,954	▲ 15.0%	31,000	90.4%
営業利益	3,140	3,149	2,605	▲ 543	▲ 17.3%	3,100	84.1%
営業利益率(%)	11.5%	9.5%	9.3%	▲0.2pts	—	10.0%	—
受注高	30,616	31,955	32,051	+95	+0.3%	31,500	101.7%
受注残高	32,467	31,435	35,454	+4,018	+12.8%	—	—



# プラント事業の概況

## 前年及び計画値に対し減収となるも効率化に努め増益 受注高の減少は、期ずれによるもの

(単位:百万円)

	2022年3月期 実績 ※	2023年3月期 実績	前年同期 増減	増減率	計画値	達成率
売上高	13,897	8,522	▲ 5,374	▲ 38.7%	9,000	94.7%
営業利益	550	560	+9	+1.7%	380	147.5%
営業利益率(%)	4.0%	6.6%	—	—	4.2%	—
受注高	12,854	7,065	▲ 5,789	▲ 45.0%	9,000	78.5%
受注残高	6,734	5,291	▲ 1,442	▲ 21.4%	—	—

※2022年3月期実績は、収益認識会計基準適用後(売上高・売上原価32.9億円)、セグメント変更による組替後の実績です。

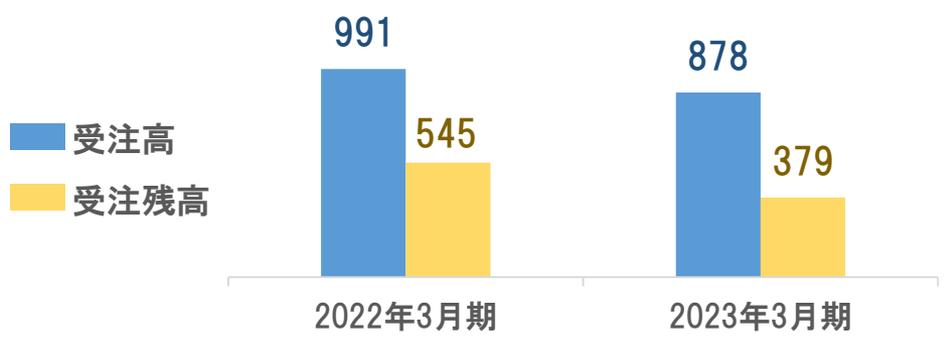
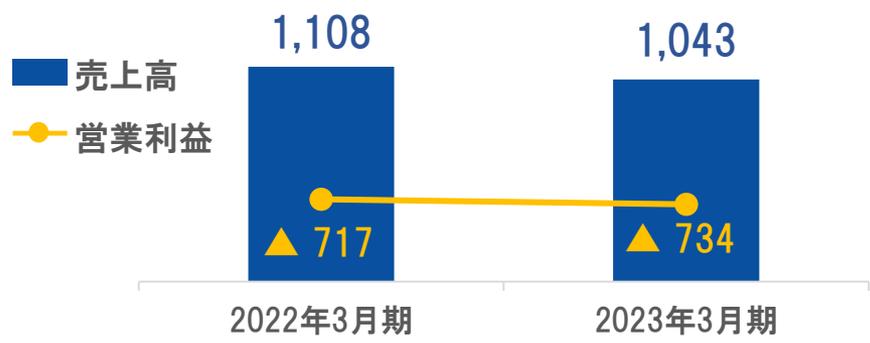


## 計画案件の中止により大幅な未達 次世代エネルギー向けタンクの研究開発は先行投資の状況

(単位:百万円)

	2022年3月期 実績※	2023年3月期 実績	前年同期 増減	増減率	計画値	達成率
売上高	1,108	1,043	▲ 65	▲ 5.9%	2,000	52.2%
営業利益	▲ 717	▲ 734	▲ 17	—	▲ 470	—
営業利益率(%)	—	—	—	—	—	—
受注高	991	878	▲ 113	▲ 11.5%	1,500	58.5%
受注残高	545	379	▲ 165	▲ 30.3%	—	—

※2022年3月期実績は、セグメント変更による組替後の実績です。



## 部品調達状況が改善した産業機械事業と 良好な市場を背景に事業拡大中の環境事業が営業利益を牽引

(単位:百万円)

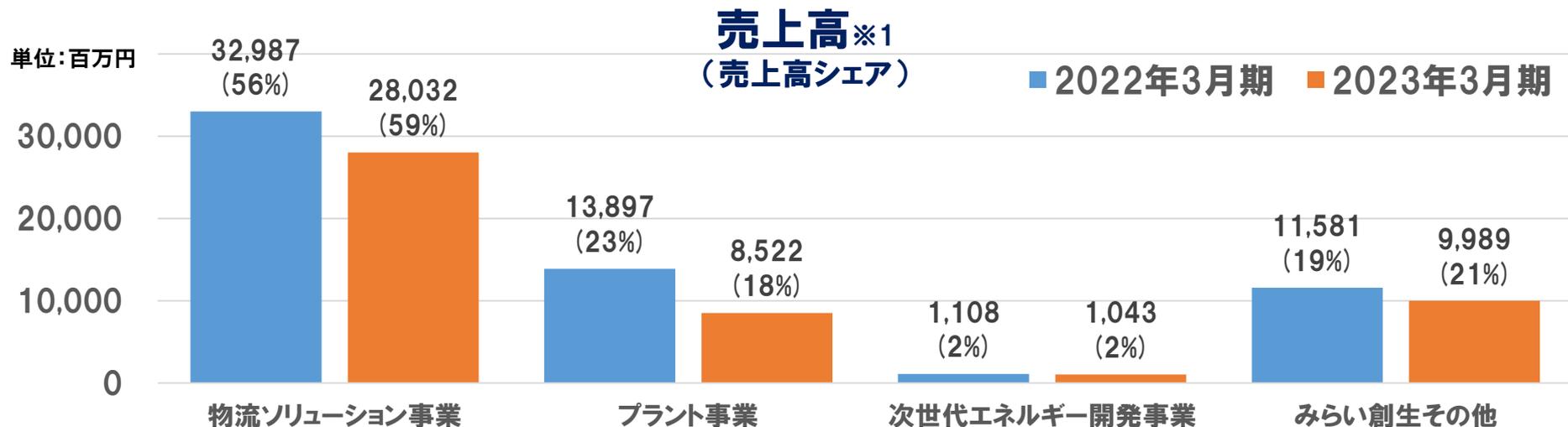
	2021年3月期 実績	2022年3月期 実績	2023年3月期 実績	前年同期 増減	増減率	計画値	達成率
売上高	6,729	11,581	9,989	▲ 1,591	▲ 13.7%	10,100	98.9%
営業利益	789	572	1,071	+499	+87.3%	800	133.9%
営業利益率(%)	11.7%	4.9%	10.7%	+5.8pts	—	7.9%	—



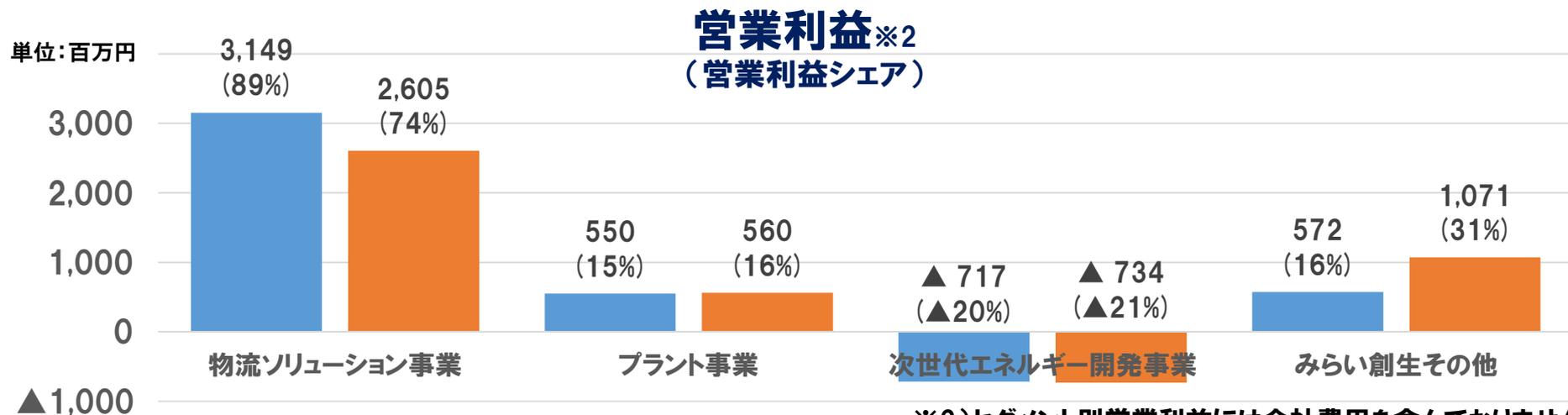
### みらい創生その他事業の内容

- 産業機械事業: ウインチ、バランサ等、荷揚機の製造、販売
- 建築事業: 福祉施設、店舗等の建築請負、鋼管杭工事請負、仮設ゴンドラの設置
- 環境事業: アスベスト、シックハウス、騒音、振動、臭気、自然環境等の調査、測定、分析及び環境計測機器保守、管理
- 不動産事業: 保有資産の賃貸
- その他: リース業など

# セグメント業績の構成



※1)2022年3月期実績は、収益認識会計基準適用後(売上高・売上原価32.9億円)のものです。



※2)セグメント別営業利益には全社費用を含んでおりません。

# 連結貸借対照表

資産は、部材調達難克服の為、原材料及び貯蔵品(在庫)を積増し  
 負債は、短期借入金金の返済により減少

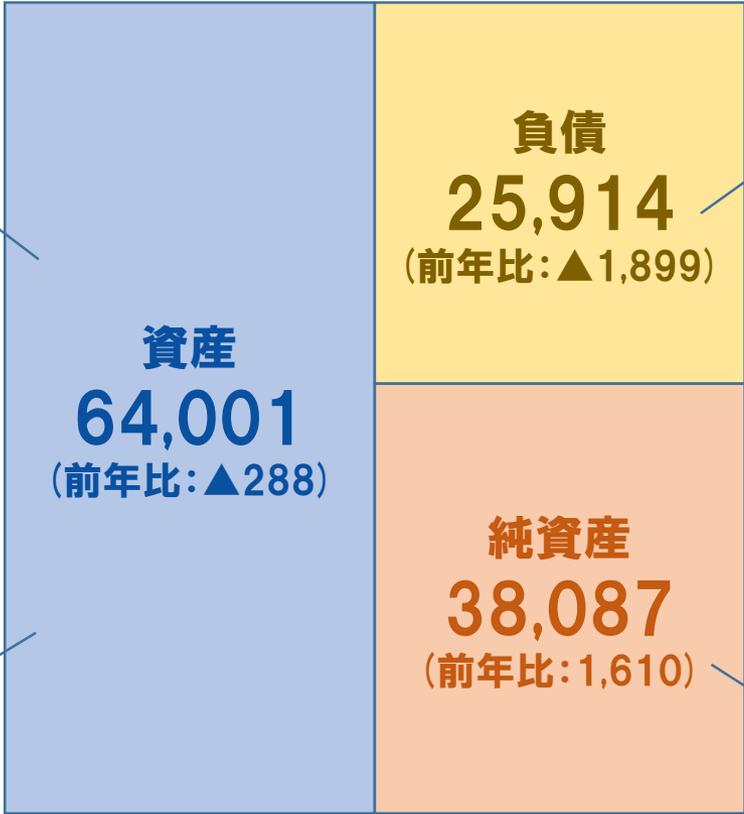
(単位:百万円)

**流動資産の増減内訳**  
(前年比: ▲597)

- 現金及び預金: ▲1,769
- 受取手形、売掛金及び契約資産: ▲1,678
- 原材料及び貯蔵品: 2,236

**固定資産の増減内訳**  
(前年比: 308)

- 有形固定資産: ▲417
- 無形固定資産: 210
- 投資有価証券: 395



**負債の増減内訳**  
 (流動負債 前年比: ▲771)  
 (固定負債 前年比: ▲1,127)

- 支払手形及び買掛金:▲517
- 契約負債: 1,482
- 借入金: ▲2,263  
(長短借入金金の純増減額)

**純資産の増減内訳**

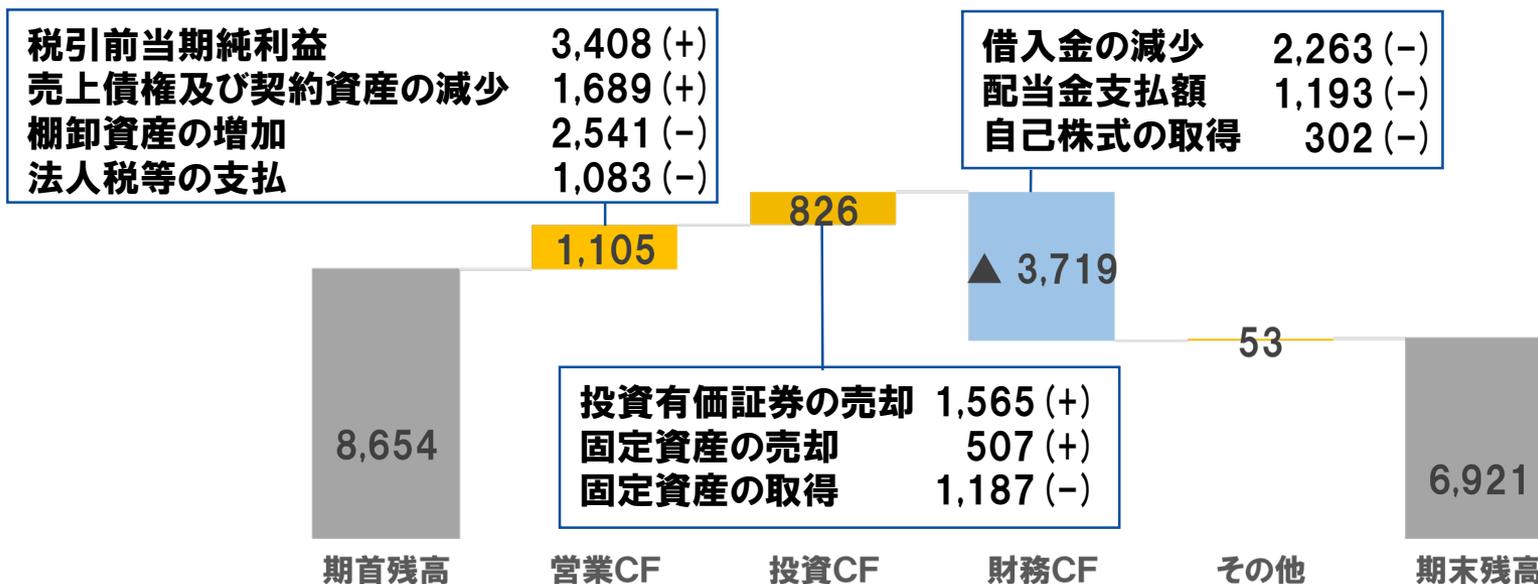
- 親会社株主に帰属する当期純利益: 2,378
- 剰余金の配当: ▲1,197
- その他有価証券評価差額金: 742

(前年比=2022年3月期末比)

## 主に、借入金の返済により 現金・現金同等物期末残高は17.3億円減少

(単位:百万円)

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	前年同期増減
営業キャッシュフロー	1,482	▲ 1,097	1,105	+2,203
投資キャッシュフロー	▲ 338	▲ 830	826	+1,657
財務キャッシュフロー	▲ 5,176	3,208	▲ 3,719	▲ 6,928
現金・現金同等物期末残高	7,309	8,654	6,921	▲ 1,733



## 2024年3月期は、増収・増益の見直し

- 物流ソリューション事業 ⇒ 豊富な受注残・部品調達難の解消・顧客領域の拡大
- プラント事業 ⇒ タンクメンテナンスの継続的な受注と収益の確保
- 次世代エネルギー開発事業(社長直轄) ⇒ 営業強化・研究開発
- みらい創生事業 ⇒ M&Aの推進・環境領域の伸長

(単位:百万円)

	売上高		営業利益 ※	
	2023年3月期	2024年3月期	2023年3月期	2024年3月期
物流ソリューション事業	28,032	32,600	2,605	3,320
プラント事業	8,508	8,500	560	450
次世代エネルギー開発事業	1,043	1,600	▲ 734	▲ 500
みらい創生事業その他	9,767	11,300	1,071	940
<b>合計</b>	<b>47,351</b>	<b>54,000</b>	<b>2,497</b>	<b>3,300</b>

※営業利益の合計は、全社費用を含みます。

## 株主還元方針に従い、2023年3月期期末配当は147円を予定 (期末配当予想135円から12円の増配)

	2020年3月期	2021年3月期※	2022年3月期	2023年3月期 (予定)	2024年3月期 (予想)
1株当たり 年間配当金	100円	115円	145円	147円	150円
連結配当性向	51.1%	54.1%	50.8%	50.1%	50.5%

※2021年3月期の期末配当の内訳:普通配当110円、創立80周年記念配当5円

## 自己株式の取得

### ● 2023年度3月期

- ✓ 普通株式11.06万株・299百万円(取締役会決議による取得)

### ● 2024年度3月期

- ✓ 普通株式43万株・1,200百万円(上限)・5/19～8/29(予定)

## 2. グループ中期経営計画(骨子)

グループ中期経営計画の詳細は、こちらをご覧ください。

[https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/2022/toyo\\_kanetsu\\_2833.pdf](https://www.toyokanetsu.co.jp/pdf/2022/toyo_kanetsu_2833.pdf)

## 社 是

わが社は 常にすすんで よりよきものを造り 社会のために奉仕する

### 10のマテリアリティと対応するSDGs目標

#### 事業を通して解決し 価値向上を目指す課題

1. 気候変動による事業  
環境変化への対応
2. 国内人口減少への  
対応



#### 持続的な企業価値向上 のために取り組む課題

3. 人材の育成と活用
4. 新技術の開発と活用
5. パートナー企業との  
協業推進
6. 生産性の向上



#### これらの 前提となる課題

7. 安全衛生の確保
8. コンプライアンス・  
ガバナンスの堅持
9. リスクマネジメントの  
高度化
10. 積極的なチャレンジ  
やスピード感がある  
企業風土への改革



社是・マテリアリティを踏まえた経営ビジョン・スローガンのもと  
中期経営計画基本方針に基づいて活動中

経営ビジョン

革新的な技術と実行力で、社会課題を解決する  
「ソリューションイノベーター」

スローガン

**ACTION FOR THE FUTURE**  
期待を超える実行力で、未来を支えるチカラになる

物流ソリューション

ACTION FOR  
NEXT LOGISTICS

未来の物流システムを  
支えるチカラになる

プラント

ACTION FOR  
INFRASTRUCTURE

社会インフラを  
支えるチカラになる

次世代エネルギー開発

ACTION FOR  
NEXT ENERGY

エネルギーの未来を  
支えるチカラになる

みらい創生

ACTION FOR  
SUSTAINABILITY

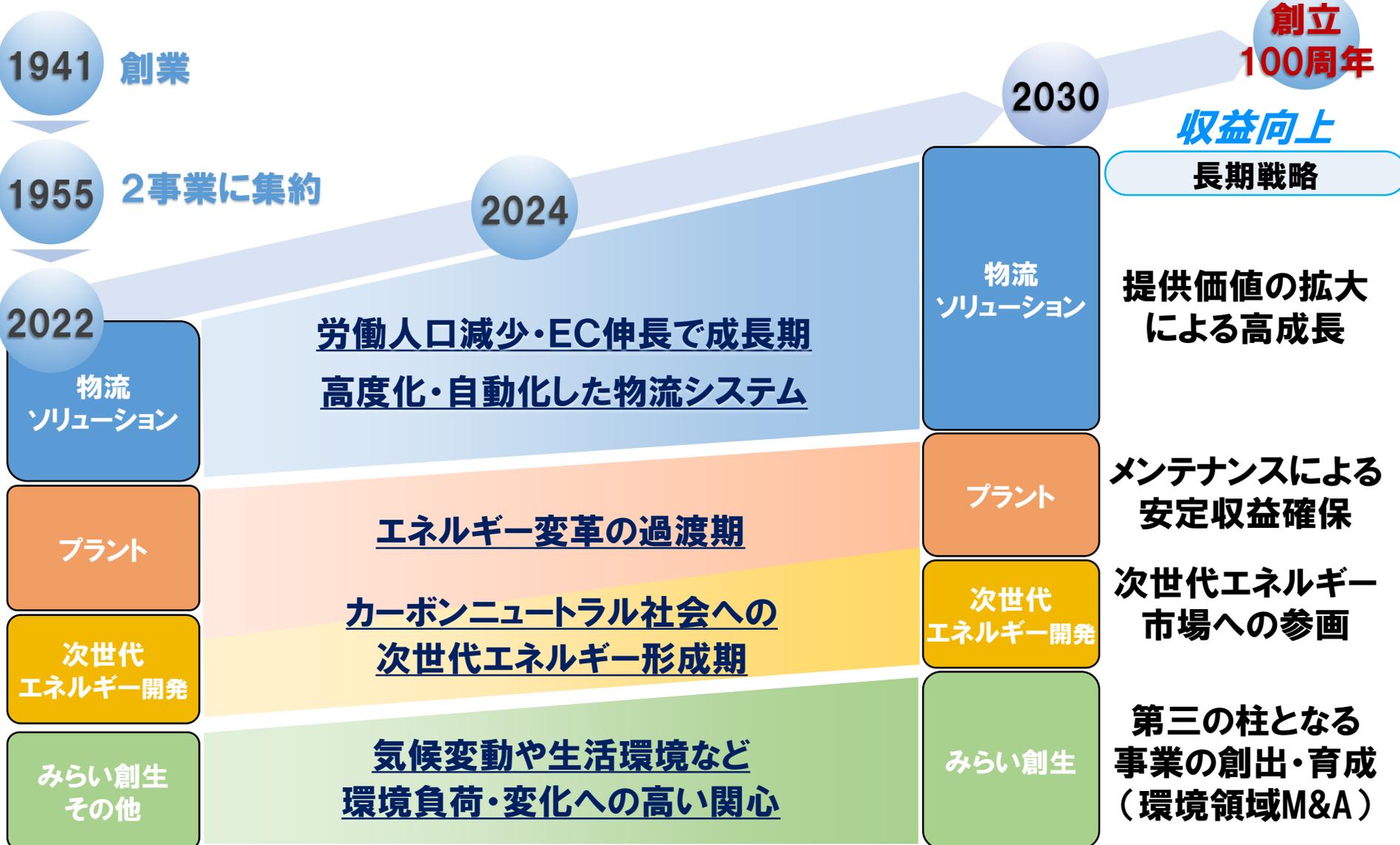
サステナブルな社会を  
支えるチカラになる

中期基本方針

未来に向けた成長路線を確立する

# 市場環境と成長戦略

長期戦略を見据え、市場トレンドや事業環境等を検証し、施策を推進



# 3. グループ中期経営計画の進捗

## 基本方針

事業領域の拡大で高成長企業へ進化する

## 重点施策

- 部分から全体エンジニアリングへの『業務領域拡大』
- 強みを活かした『提案力の向上と顧客領域の拡大』
- 人材育成・確保による『サービス事業の強化』
- 映像とデータを融合した新ソリューションの開発

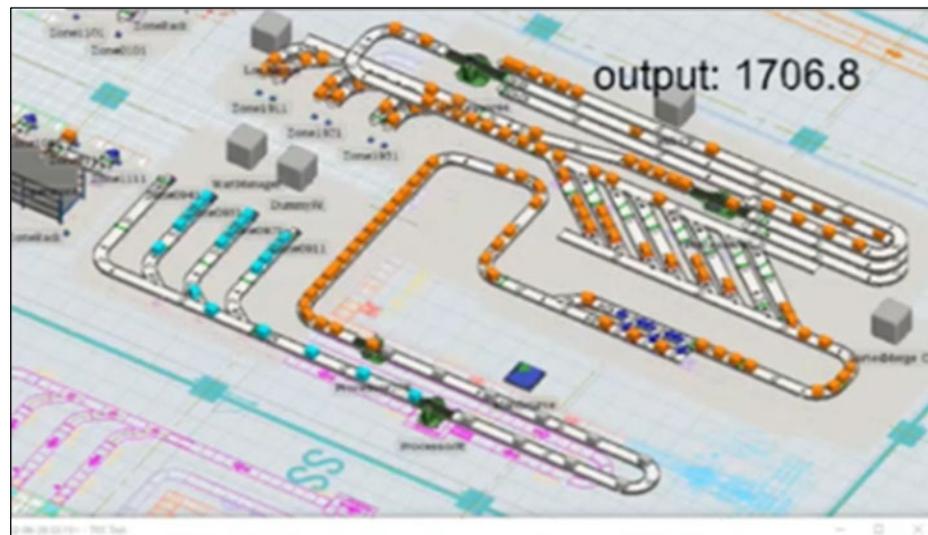
## 物流センターを熟知した目線で開発されるWMSにより さらなるお客様の業務効率化を提供



- WMS開発のため2社(株)ファーストオーダー・(株)スクラムソフトウェア)へ出資
- 物流センターの前後の荷動き(入荷・出荷)とWMSの連携により、**デマンドチェーン型物流※のソリューションを目指す**

※デマンドチェーン型物流:マーケティングと営業の視点・消費者起点で荷動きを管理する考え方  
サプライチェーン型物流(生産と供給の視点で荷動きを管理する考え方)との対比

- センター内の荷動きを見える化し、さらなるお客様の効率化を実現



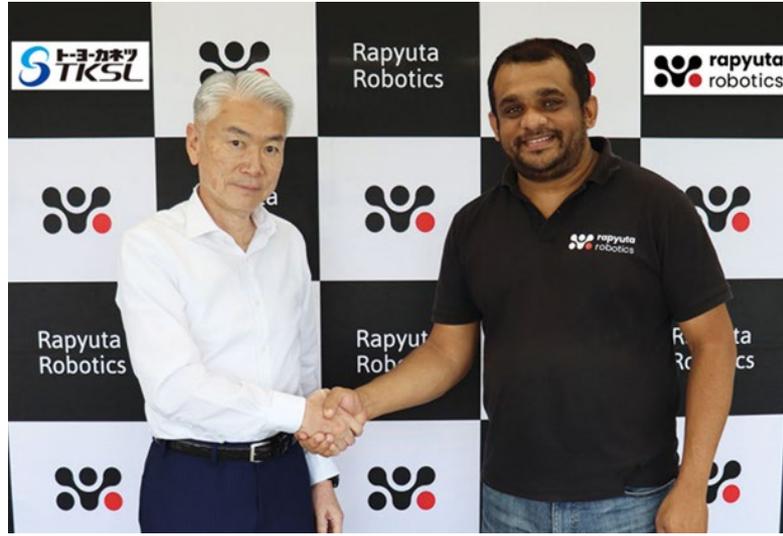
## 国内のみならず世界から高性能・最先端の機器を導入し 全く新しいソリューションシステムをお客様に提供

8	9	17
↑ 高稼働率 稼働率向上	↑ 顧客と技術者の 連携を強化	↑ パートナーシップで 世界をリード

➤ 新たに3社※と提携することにより最新の機器を組合せた  
高効率システムで最適なソリューションを自在に提供

※3社: Zhejiang Libiao Robotics(浙江立鏢機器人) / Rapyuta Robotics / Modula S.P.A

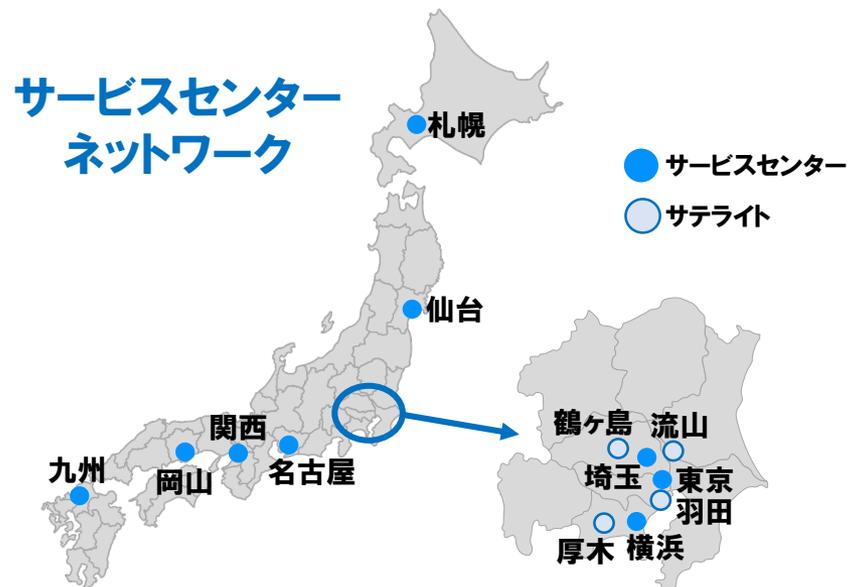
➤ 導入により、EC・生協・空港・3PLといった得意領域に加え、  
メーカー工場や食品製造仕分け工場などへ実績を拡大



## 新規納入から長期にわたり「止めない物流」を実現する サステナブルなサービスへの進化



- お客様との対話を通じた計画的なフルメンテナンス対応の拡充
- 技術・品質の向上を目指した人材育成(エデュケーションセンター)
- エリアにおけるきめ細かな対応を実現する拠点(サテライトセンター)の新設投資



## 基本方針

エネルギー転換の過渡期における  
安定したエネルギーインフラへの寄与

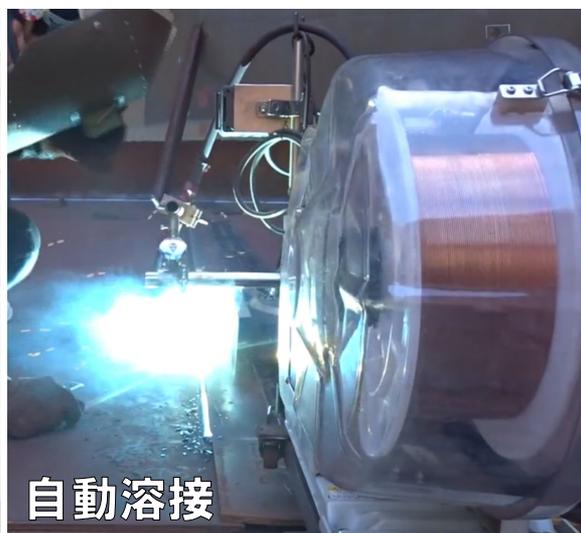
## 重点施策

- 『メンテナンス需要の継続受注』及び新規取込みによる  
安定収益確保
- TKKプラントエンジ社のフル活用や協力会社との協業で  
効率追求
- タンクメーカーの実績と知見を基にした活躍領域の拡大

## 半世紀以上にわたる継続的なタンクメンテナンスで しっかりとエネルギーインフラ維持に寄与



- 全国で常時100基を超えるタンクで法定点検メンテナンスを実施
- 現場への新たな自動溶接技術の導入など保有技術を進展
- 年間を通し安全・品質・環境の観点で計画的パトロール活動を実施



自動溶接



安全情報提供モニタ・センサ

## 基本方針

次世代エネルギー社会到来に向けた  
高度な技術力の獲得と参画

## 重点施策

- 『燃料アンモニア・MCH※・液化CO<sub>2</sub>』などの貯蔵ニーズへの取組み
- 『液化水素タンク』の建設技術(設計・溶接検査・施工)の獲得

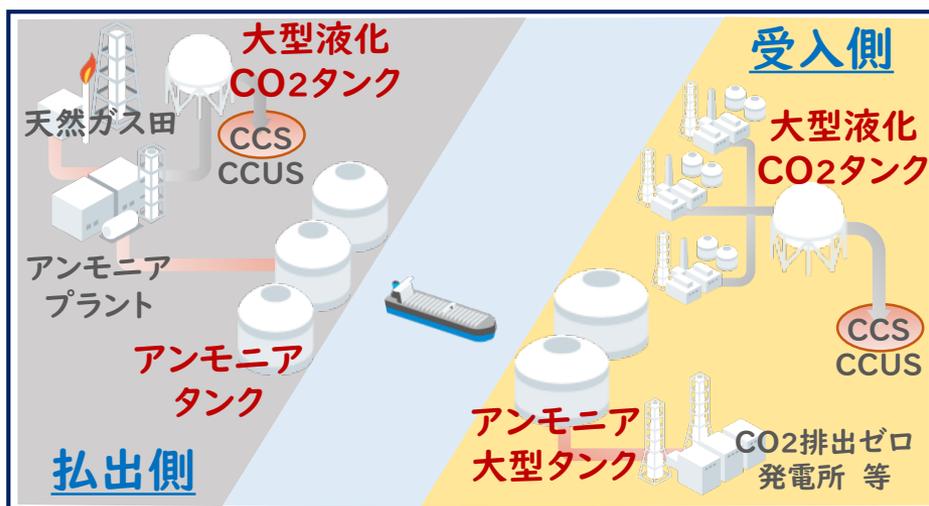
※MCH(メチルシクロヘキサン):水素キャリアのひとつ。  
トルエンに水素を反応させ、常温・常圧・液体で運搬が可能。

## 実績のあるアンモニアタンク建設に加え 大型液化CO<sub>2</sub>球形タンク建設技術の獲得完了



- タンク専門メーカーとして大型化・低温貯蔵技術を保有
- 実績のあるアンモニアタンクは建設フェーズに向けた動きに参画中
- CCS・CCUS※の大規模な事業化に備え、液化CO<sub>2</sub>球形タンクの「低温・低圧」仕様での大型化技術を獲得

※CCS: CO<sub>2</sub>回収・貯留技術/CCUS:分離・貯留したCO<sub>2</sub>の利用



## 大型液化水素タンク建設の基本技術確立に目途



### ➤ 研究開発の進捗と成果

- 屋根部・側部のふく射伝熱抑制
- アンカーストラップ部の伝導伝熱抑制
- 底部の伝導・ふく射伝導熱抑制
- 真空排気システムの確立

⇒貯槽底部真空排気実証実験により所要の真空度獲得を確認。

- 内槽底部への入熱量算定手法の確立

⇒底部断熱構造(1/3スケール)実測装置を製作し、断熱性能を測定・分析手法確立を確認。

- 溶接材料(SUS316L)を使用した溶接施工法の確立

⇒破壊靱性試験・低歪速度引張試験を実施・検証。水素脆化感受性は非常に低いことを確認。

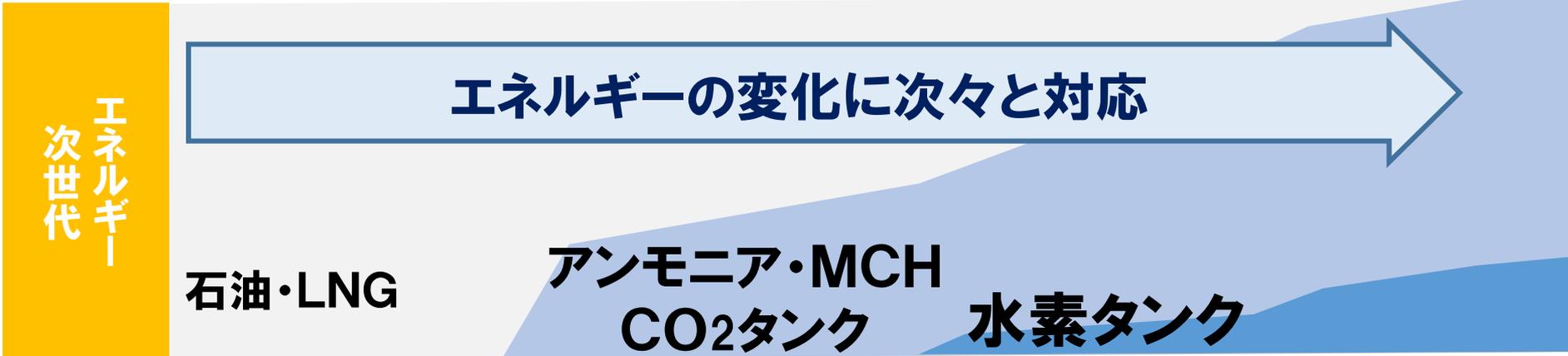
### ➤ 液化水素を用いた実証フェーズへ



断熱性能測定装置

# 次世代エネルギーの展望

カーボンニュートラルの進展に伴う次世代エネルギーへの期待の高まりを受け当事業を社長直轄としスピード感を持って対応



TKK	アンモニア・MCH CO <sub>2</sub> (CCS/CCUS)	開発	受注	建設
	大型液化水素	基礎技術	実証実験	建設

## 基本方針

グループの成長を加速させる第3の事業確立への挑戦

## 重点施策

- 環境領域のM&Aを含めた事業拡大
- 『グループ各社の競争力強化』による安定収益化
- 保有技術・ノウハウ及び外部連携によるビジネスモデルの  
変革

みらい創生事業は、以下のグループ4社で構成されています。

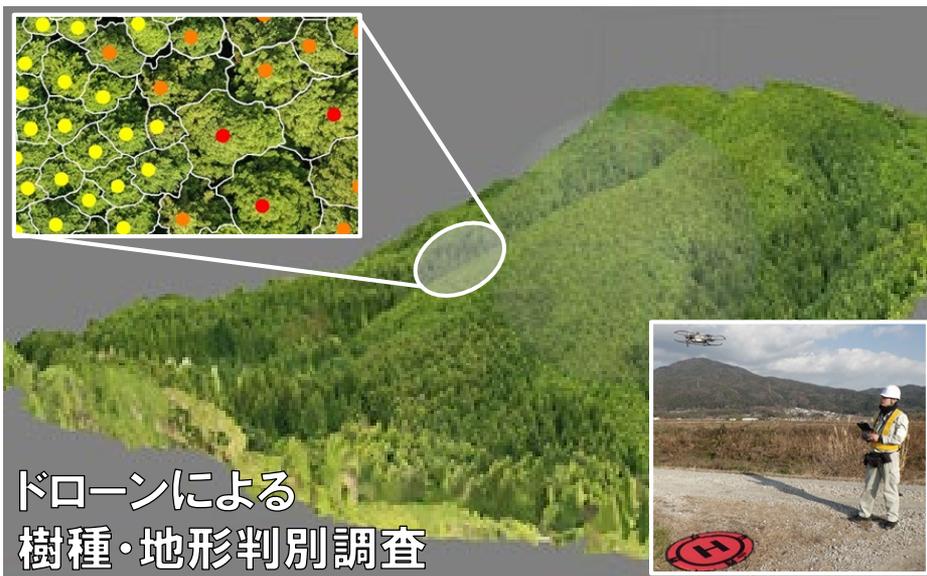


## 今までの実績を背景に業容を拡大 環境フィールド調査を通じた社会貢献にも参画



### 環境計測(株)

- 全国の官公庁から定評をいただいている大気や水質等の環境測定機器保守業務に加え、森林環境ソリューション業務にも進出
- 滋賀県造林公社様とパートナー協定を締結し、伐採後の天然更新調査等に社会貢献・知見拡大の両面で参加協力



## CO<sub>2</sub>量、空気の流れ、音の伝播・・・ 生活環境に及ぼす影響をDXで見える化し改善



### 環境リサーチ(株)

#### ➤ アスベスト検査領域に加え環境コンサル提案ビジネスに進出

- KRIセンサーによる“空気や音”の常時・遠隔検知  
(温度・湿度・気圧・気流・CO<sub>2</sub>濃度・騒音レベル・粉じん量など11項目を常時検知)
- 騒音レベル調査による建物竣工前後の伝播状況も見える化

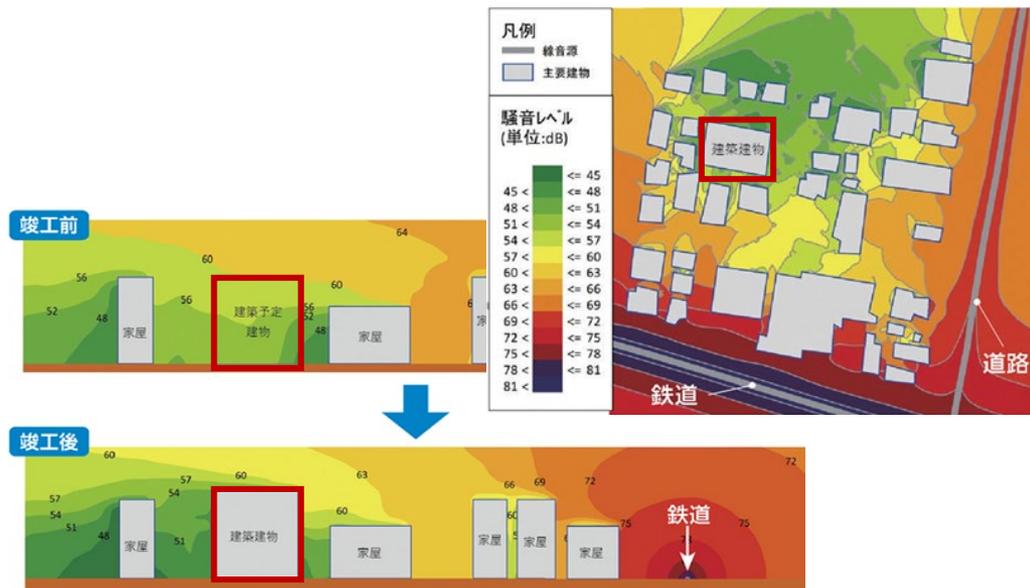
八王子市中央図書館  
HACHIOJI CENTRAL LIBRARY

1階 児童図書コーナー

KRIセンサー

八王子市  
HACHIOJI CITY

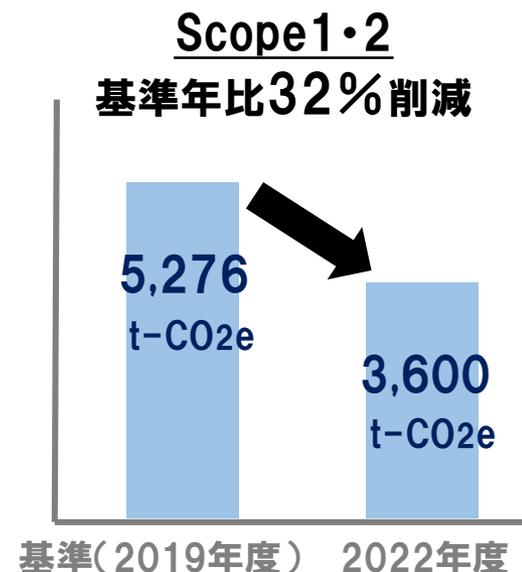
CO <sub>2</sub> 濃度 1,217 (ppm)	温度 27 (°C)	相対湿度 37 (%RH)
--------------------------------------	------------------	---------------------



## E

### 環境

- 専門組織となる環境グループの新設
- GHG排出量の削減
  - ・ 本社・和歌山工場のCO2オフセット
- 環境系イニシアティブ等への参画
  - ・ 気候変動イニシアティブ
  - ・ GXリーグ
- 今後の気候変動対応に関する環境投資
  - ・ 社用車EV化や太陽光発電増設の検討など推進
- ポジティブインパクトファイナンス(PIF)の活用
  - ・ 格付投資情報センター(R&I)によるPIF原則適合確認



## S

### 社会

- **ダイバーシティ&インクルージョンの推進**
  - 健康経営優良法人2023
  - トモニン取得
- **労働安全衛生マネジメントシステムの策定**
- **地域コミュニティとの共生**
  - アートパラ深川協賛
  - 江東区民まつり協賛
  - トーヨーカネツ子ども文庫



## G

### ガバナンス

- **取締役10名(社外取締役5名・うち女性2名)**
- **社外取締役が委員長・委員の過半である「指名諮問委員会」・「報酬諮問委員会」を設置**

## 4. 今後に向けて

## 中期経営2024年度目標

売上高650億円 営業利益42億円 ROE8%



ROE	6%	6.4%	6%	8%
<b>物流ソリューション</b>	売上高 310.0 億円 営業利益 31.0 億円	売上高 280.3 億円 営業利益 26.0 億円	売上高 326.0 億円 営業利益 33.2 億円	売上高 364.0 億円 営業利益 37.0 億円
<b>プラント</b>	売上高 90.0 億円 営業利益 3.8 億円	売上高 85.0 億円 営業利益 5.6 億円	売上高 85.0 億円 営業利益 4.5 億円	売上高 85.0 億円 営業利益 4.5 億円
<b>次世代エネルギー開発</b>	売上高 20.0 億円 ▲4.7 億円	売上高 10.4 億円 ▲7.3 億円	売上高 16.0 億円 ▲5.0 億円	売上高 24.0 億円 ▲2.6 億円
<b>みらい創生 その他</b>	売上高 101.0 億円 営業利益 8.0 億円	売上高 97.6 億円 営業利益 10.7 億円	売上高 113.0 億円 営業利益 9.4 億円	売上高 177.0 億円 営業利益 12.3 億円

## 引き続き、将来に向けた成長・研究開発・人材の各投資を積極的に実施しグループとしての次なる飛躍期への成長路線を確立する

### 3カ年の累計

営業CF  
約**100**億円

(参考)  
減価償却費  
約**30**億円

必要に応じた  
資金調達

配当金  
**30**億円以上

成長投資  
研究開発  
**100**億円規模

定常設備投資

ワーキングキャピタル

- 配当性向**50%**以上  
(2023年6月配当予定**12**億円)
- 成長投資
  - ・ M&A、出資 など
- 研究開発
  - ・ 物流ソリューション製品開発
  - ・ 水素タンク研究 など
- 設備投資
  - ・ 和歌山工場(BCP及び生産活動高度化)

## 資本政策の基本方針

- 中長期的な企業価値の向上のため、内部留保及び借入を活用した成長投資を行います。
- 自己資本比率は50%以上を維持し財務の健全性を守るとともに最適な資本構成を図ります。

## 株主還元方針

- 連結配当性向:50%以上とします。  
(1株当たり年間100円配当を下限とします。)  
ただし、大規模な資金需要が発生した場合にはこの限りではありません。
- 連結総還元性向は設定しないものの、業績動向などにより機動的に対応することとします。
- 本方針の適用期間:2023年3月期から2025年3月期までの3期とし当該期間終了時点で見直すこととします。

## 基本的な考え方

- 資本コストについては、金融市場を取り巻く環境を考慮し、企業経営の円滑化及び成長に資する活動のために最適な方策を選択してまいります。
- 資本収益性については、重要な経営テーマとして認識しており、グループ中期経営計画に沿って各事業体が施策を推進し、一体となって数値目標の達成に努力してまいります。
- 市場評価の形成については、プライム上場企業として積極的な対話を通し正しい理解の促進を図り、株主・投資家との信頼を構築してまいります。

## 前期の主な結果

- 株主総利回り(TSR) 105.4%
- 自己株式の取得 普通株式11.06万株 299百万円(取締役会決議による取得)
- 政策保有株式の売却 1,544百万円(連結純資産比19.2%・2023年3月末時点)

## 今期の予定

- 自己株式の取得 普通株式43万株・1,200百万円(上限)  
取得期間5/19～8/29(予定)
- 政策保有株式の売却 適宜進めてまいります。
- 市場対話施策の実施 施策を拡充してまいります。  
(機関投資家1on1ミーティング、個人投資家向けIRセミナーの実施など)

当資料に関するお問い合わせ先

## トーヨーカネツ株式会社

コーポレート本部 経営企画部

TEL:03-5857-3333 FAX:03-5857-3170

<https://www.toyokanetsu.co.jp/>

コード番号:6369 東証プライム



### 注意事項

本資料に記載されている計画、予測または見通しなど将来に関する事項は、種々の前提に基づき策定したものであり、将来の業績等を保証するものではなく、今後様々な要因により変動する可能性があります。